



ごあいさつ

OB会会長 高橋 研一

昨年、熱い一夜から早くも1年。今年もここに、第2回のOBオーケストラの演奏会が出来ます事を、OB一同うれしく思います。

健康をとりもどされました、加藤先生の指揮で、どの様な演奏になりますか。なにせ3日間の練習です。本日聴いていただきます皆様には、心やさしく、大らかに楽しんでくださる様、願います次第です。

本日の演奏会実現に当りまして、ご協力いただきました皆様に、心から敬意を表します。

又、私達OBを育ててくださいました、加藤先生、橋場先生、今野先生、橋本先生に、OB一同心より感謝申し上げます。

西高いまむかし

運営委員4期 西村 信

先だっでの「育てる会」総会で、現役の生徒のアンサンブルを聴いた。

そのほとんどが、西高に入ってから楽器を手にしたという生徒の演奏だから、出来映えをとにかく言っても仕方がない。しかし、ハラハラしながら聞いている聴衆（といっても20人くらい）の心配をよそに、彼等は、気ばるでなく、照れるでなく、恬談として、自分達の音づくりを楽しんでいた。

そんな生徒達を見ていて、楽器を手にすることによって考えられるであろう。音楽の喜びが、彼等の未来に必ず豊かな色どりを添えてくれるであろうことを確信した。と同時に、気軽に楽器と親しむ機会が、手近にある環境にある若者をうらやましく思った。そんな若者の顔が、三十数年前の若者の顔と重なってくる。——バイオリンにピオラの弦を張り、ピオラの代用としたので、弦代を予算に組んでほしいと生徒会の予算合議で訴っていた音楽部の代表。指揮台はミカン箱で間に合いませんともいっている。——

豊かな時代になったのだという実感が、胸の奥から湧いて来た。

つい最近、同期の連中と会ったとき、そんな感想を言ってみた。するとある奴は、ヒガンでいないでオレ違だって豊かさを味わおうぜと喚きたてる。例えば彼は言う。「オール西高による手づくり第九なんてのはどうだ。やる気さえあれば誰でも参加できるぞ。OBオケも出来たことだし絶対実現可能だ。」

音楽部OBを中心にたちまち賛同者が出て、話がエスカレートし、熱が入る。そのさまは、先日の若者達と遜色なく映った。

結果、二年か三年先に手づくり第九をぜひやろうということになって、仕掛人探しを押しつけられてしまった。どなたかやって下さる方いらっしゃいませんか。